



クロージアップ
今を生きる 人こそが宝
第7回

(有)酒向自動車工業 代表取締役

酒向光雄

(さこうみつお)さん

自分の口は自分で養う みんなで知恵を出し合おう

◆見習い生活での苦勞

昭和22年に和寒青年学校を卒業する以前から、兄が馬そりを製作してもらったことをきっかけに、昭和21年剣淵町の佐藤軽車両で技術を習得するため見習いとして働いた。馬車・馬そりを製作する会社であり、丁稚といわれる見習いであることから、もちろん給料はない。生活の面倒はみてくれるが、朝5時から夜の

11時まで土日もなく働いた。ご飯炊き、水くみ、掃除、冬は雪はね、仕事前はこま使いの毎日。そこで7年間勤めたのち、比布町にある高瀬軽車両に新たな技術を習得するため、勤めることとなる。当時は、大変人気のあった保導車といわれるもので、ゴムのタイヤを装着した馬車を製作した。アメリカ製の中古タイヤにスプリングをつけた、いわ

ばりヤカーのような運搬車だ。

数々の苦勞を経験しながら、ついに昭和30年に酒向軽車両として和寒町での独立開業を果たすことになる。

◆自動車販売と整備

開業当初は、これまでの技術を活かして、馬車・馬そり・農機具製作が中心であった。当時の農業は、馬と農機具があれば農業ができるといわれた時代であり、大変な忙しさだったという。

その後、時代の流れとともに、まだまだ数は少なかったが、自動車販売や整備の仕事も行うようになった。特に販売については、1日に3台以上売れることもあり、年間100台以上の販売実績を上げることもあった。和寒町にある自動車のほとんどは、酒向さんが販売したもの。運転技術を教えるため、路上での講習にも同伴したことも多かったという。また、車を購入すると、部落で入魂式を行う習慣もあり、その席にも出来る限り同席した。

◆大事にしてきたもの

これまでの馬車・馬そり製作販売から、時代の変化とともに自動車販売と整備へと方向転換しながらも、町の自動車屋さんとして、多くの町民に親しまれてきた。

酒向さんは、幼いときから父親がなく、兄弟6人と力を合わせて生活してきた。『自分の口は自分で養う』というのが当たり前で、生きていくために、見習い時代から様々な苦勞を重ねてきた。そんな、酒向さんが大事にしてきたもの。それは『一番は従業員。従業員は家族同様』と答えてくれた。これまで、自動車整備士の育成にも力を注いできた。そして、多くの人から愛される会社を運営するには、従業員が一番大事だという。

また、町内も寂しくなってきたところもあるが、みんなが少しでも知恵を出し合って考えていくことが大事だと語ってくれました。



酒向 光雄さん [(有)酒向自動車工業] 77歳

和寒町字南町 TEL0165-32-2173

出身：和寒町字東和生まれ

経歴：1947年 和寒青年学級卒業 1946年 佐藤軽車両 (剣淵町)

1954年 高瀬軽車両 (比布町) 1955年 酒向軽車両創業

趣味：旅行、登山、釣り